めぶき東アジアレポート

MEBUKI EAST ASIA REPORT

2026 年　No.4



香港通信

～「人材」を成長につなげる香港の戦略～

東アジア駐在員コラム

～上海で注目の癒やし系 DIY～

ニューストピックス

～中国サッカー事情～

ニュース一覧

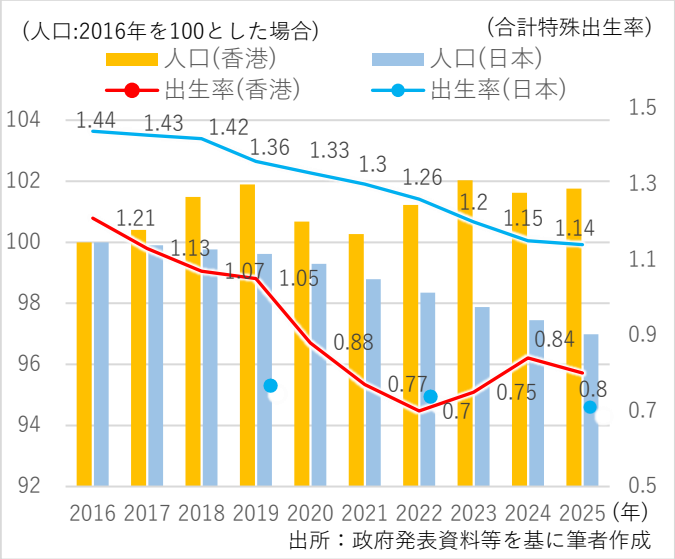
常陽銀行　足利銀行　MEBUKI めぶきフィナンシャルグループ

香港通信

～「人材」を成長につなげる香港の戦略～

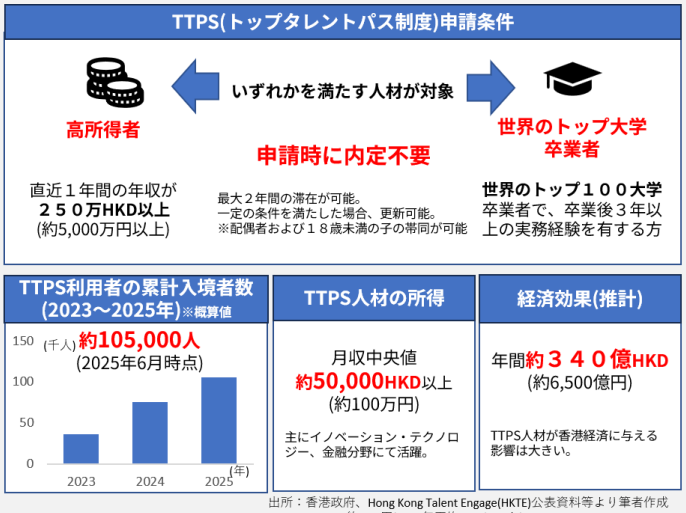
- 香港では、少子高齢化への対応と経済成長に向け、世界から人材を呼び込んでいます。
- 本レポートでは、世界的な人材獲得競争の中で、香港がどのように人材を誘致・定着させているのかを解説します。

（図 1）香港と日本の人口と合計特殊出生率の推移



出所：政府発表資料等を基に筆者作成

（図 2）トップタレントパス制度



出所：香港政府、Hong Kong Talent Engage(HKTE)公表資料等より筆者作成
1HKD＝約19.2円(2025年平均TTMレート)

香港の人口動態と人材戦略

香港の合計特殊出生率は近年、世界最低水準で推移しており、日本以上に少子高齢化が深刻な状況にあります。一方、香港の域内人口は、コロナ禍に伴う一時的な人口減少を経たものの、その後は回復基調にあります。日本では人口減少が長期化しているのに対し、香港では域外からの人口流入が人口を下支えしており、双方の人口動態には明確な違いが見られます（図 1）。

香港では、出生による自然増だけでは人口や労働力を確保することが難しい中、域外からの人材・労働力の受入れが重要な役割を果たしてきました。さらに近年は、域外からの人材を、経済成長を支える貴重な資源と位置付け、より優秀な人材を誘致するための政策強化に力を入れています。

香港の人材誘致政策

代表的な人材誘致政策が「トップタレントパス制度（TTPS）」です。TTPS は、高所得者や世界の有力大学卒業者などを対象とした人材誘致制度であり、最大の特徴は、申請時点で香港企業からの内定を必要としない点です。優秀な人材は、まずは香港に移住した上で、その後に就職や起業の機会を探すことができます。現状、TTPS を利用して入境する高度人材は中国本土出身者の割合が多いものの、世界各国・地域からも受け入れており、主に金融やイノベーション分野で活躍しています。制度開始の 2022 年末から 2025 年 6 月までの累計入境者数は約 10 万 5 千人であり、TTPS 人材の経済効果は約 6,500 億円になると推計されています（図 2）。

ところで、日本にも高度人材を対象とした、就職先が未定であっても一定の条件を満たせば在留可能となる「J-FIND」（2023 年 4 月に導入）という制度がありますが、2025 年 12 月時点で制度利用在留者は 1,340 人となっています。制度の仕組みや対象者が異なるため単純比較は出来ませんが、流入人口数から見ると TTPS はその役割を果たしていると言えるでしょう。

誘致政策の成果

こうした人材誘致をめぐる取り組みは香港だけのものではなく、少子高齢化や人口減少が進む国・地域では企業や地域の成長を支える人材を海外から獲得することが重要な政策課題となっており、世界各国・地域で優秀な人材の獲得競争が行われています。

この中で香港は、世界的に見て一定の成果を上げています。IMD（国際経営開発研究所）が毎年公表している「World Talent

（図 3）「World Talent Ranking 2023～2025」

World Talent Ranking

香港の人材力は世界４位(2025年度)

２０２３年度		２０２４年度		２０２５年度	
順位	国名	順位	国名	順位	国名
１位	スイス	１位	スイス	１位	スイス
２位	ルクセンブルク	２位	シンガポール	２位	ルクセンブルク
３位	アイスランド	３位	ルクセンブルク	３位	アイスランド
４位	ベルギー	４位	スウェーデン	４位	香港
５位	オランダ	５位	デンマーク	５位	オランダ
６位	フィンランド	６位	アイスランド	６位	スウェーデン
７位	デンマーク	７位	ノルウェー	７位	シンガポール
８位	シンガポール	８位	オランダ	８位	デンマーク
：		９位	香港	９位	ＵＡＥ
１６位	香港	１０位	オーストリア	１０位	オーストリア
：		：		：	
４３位	日本	４３位	日本	４０位	日本

出所：「World Talent Ranking 2025」より筆者作成

（図 4）香港は「人材」を成長の源泉として政策を強化



Ranking」（図 3）において、香港は 2025 年度に世界第 4 位、アジア第 1 位となりました。このランキングは、①自国人材の投資育成の手厚さ、②海外人材を惹きつける魅力、③人材の能力の高さ、の 3 項目を評価して順位付けしたもので、「国の未来の成長力（稼ぐ力）」の指標ともされています。香港は前年の世界第 9 位から順位を上げていますが、特に②の評価が前年より上昇したことが大きな要因となりました。このことから、人材誘致政策を整備したことが、世界的な人材獲得競争の中で香港の存在感を高めることに繋がったと考えられます。

「誘致」から「定着・活躍」へ

香港の人材誘致は成果を上げている一方で、優秀な人材であるほど様々な国・地域から働く場所を自由に選択できるため、今後は人材を誘致するだけでなく、香港で長期的に活躍してもらい、定着に繋げることも重要になります。

この点について、香港政府は人材の誘致強化と併せて、定着に向けた取り組みも進めています。例えば、「Hong Kong Talent Engage（HKTE）」と呼ばれる人材専門の組織を設立し、就職支援だけでなく住居や教育、生活面などについても情報提供や支援をワンストップで行うなど、単にビザを発給するだけでなく、来港後の定着まで意識した政策を実施しています。

さらに、香港政府が 2026 年 9 月に公表した「香港特別行政区経済・社会発展第 1 次 5 ヵ年計画（2026 - 2030 年）」には、香港を「国際的な高度人材の集積拠点」とする方針が示されています（図 4）。本計画では、香港が従来から強みを持つ金融分野の高度化に加え、新たな成長エンジンとして科学技術・イノベーションを育成する成長戦略が描かれるとともに、それを支える人材戦略として、海外の優秀な人材受入れによる人材の国際化や高度化、またその後の定着までを一体的に進めるとしており、今後さらなる政策が実施されることが予想されます。

まとめ

近年、日本国内でも外国人材が増加傾向にありますが、今後は世界各国・地域との人材獲得競争がこれまで以上に激しくなると考えられます。

その中で優れた人材を呼び込むためには、外国人材を単なる人手不足解消の「労働力」としてではなく、持続的な成長を支える重要な「経営資源」と捉え、誘致・採用から定着・活躍に至るまでの総合的な戦略が欠かせません。その点において、優秀な海外人材の誘致に成功している香港の施策は、日本のこれからの人材戦略を考える上で多くの示唆を与えてくれるのではないでしょうか。

当事務所では、今後も香港の人材誘致政策に注目し、情報収集に努めてまいります。

足利銀行香港駐在員事務所
佐竹　寛

東アジア駐在員コラム

～上海で注目の癒やし系 DIY「アイロンビーズ」～

最近、上海でアイロンビーズ「拼豆（ピンドウ）」と呼ばれる手作りDIY が人気を集めています。週末になると、多くの若者や学生、親子連れが体験に訪れます。色とりどりのビーズを並べ、アイロンで熱を加えるだけで、キーホルダーやマグネット、アクセサリーなどが完成するため、新しいブームになっています。

体験ショップには、さまざまな種類のビーズが用意されています。サイズは初心者向けの 5㎜ から上級者向けの 2.6㎜ まであり、素材はハードタイプ、ソフトタイプ、そして両者の特性を合わせた融合タイプなどがあります。また、パール調やマカロンカラー、蓄光タイプなど、数百種類のカラーが揃っており、好きな模様を自由に作れます。この種類の豊富さが中国のアイロンビーズの大きな特徴です。

アイロンビーズが人気になったのには、いくつかの理由があります。一番の理由はストレス解消でしょう。一粒ずつビーズを並べる作業に集中することで、仕事や生活の悩みを忘れ、心が落ち着きます。忙しい毎日の中で、自分のペースで過ごせる貴重な時間になるのです。また、コミュニケーションのきっかけにもなります。友達同士やカップル、親子で一緒に制作すれば、会話を楽しみながら、ゆったりとした時間を共有できます。自分が作ったものをプレゼントすれば、市販品にはない世界に一つだけの温かい気持ちを伝えられます。

さらに、集中力や創造力を養える点も魅力です。特に子供にとっては手先の訓練になり、配色を考えることで想像力も育ちます。知育玩具としても人気です。実際、私の子供も友達と約束してアイロンビーズを楽しんでおり、出来上がった作品を交換し合って楽しそうにしています。

アイロンビーズは今や上海の定番 DIY 体験となりました。低価格で気軽に始められるので、忙しい毎日に疲れたときは、自分だけの作品を作り、穏やかな時間を過ごしてみてはいかがでしょうか。

常陽銀行上海駐在員事務所
現地スタッフ　続　蘇蘇



＜体験ショップの様子＞


＜アイロンビーズの作業台＞



＜アクセサリーコーナー＞


＜出来上がった作品＞

ニューストピックス

～中国サッカー事情　地域リーグの熱狂が中国サッカーを変える！？～

中国は世界有数のサッカーファン人口を誇っており、今年の北中米ワールドカップでは 2 億人が視聴したとされます。また、国家公認のサッカーくじも同大会期間中に前年比＋500 億元（約 1 兆 1800 億円）超の売上増を記録するなど、数字のうえではサッカーは「人気スポーツ」となっています。

しかし、中国代表のワールドカップ出場は 2002 年の一度だけです。2010 年代にはプロクラブが巨額の資金で世界的な選手を獲得し、アジア制覇を成し遂げましたが、その後に協会幹部の大規模な汚職事件や親会社の破綻によるクラブ解散が相次ぎ、プロリーグの人気は低迷してしまいました。

そんなプロリーグの低迷とは対照的に、地方のアマチュアリーグでは注目すべき盛り上がりが見られています。例えば江蘇省の「蘇超」では省内 13 市が対抗戦を繰り広げ、非常に盛り上がっています。このような動きは四川、湖北、福建、雲南、江西など中国各地に広がっています。その背景には、選手が学生や会社員といった身近な存在であることが挙げられます。そのため観客は選手に親近感を持ちやすく、地元の選手を応援することで地域への愛着も深まります。さらに、観光や飲食産業を巻き込む経済効果も大きいため、地方政府も積極的に後押ししています。

中国のサッカーリーグ構造は、1 部から 3 部がプロ、4 部がアマチュア全国大会、その下に地方のアマチュアリーグが広がっています。プロリーグでは「結果」と「お金」ばかりが重視されるようになり、ファンが離れてしまいました。しかし、地方のアマチュアリーグでは、サッカーが「お祭り」のような楽しみを取り戻し、地域の人々の絆が生まれています。

中国サッカーは、トップダウン型からボトムアップ型へ舵を切ろうとしているように見えます。地方リーグの純粋な熱狂が、中国をサッカー強国へと生まれ変わらせるきっかけになるかもしれないと感じています。

常陽銀行上海駐在員事務所
小平　浩史

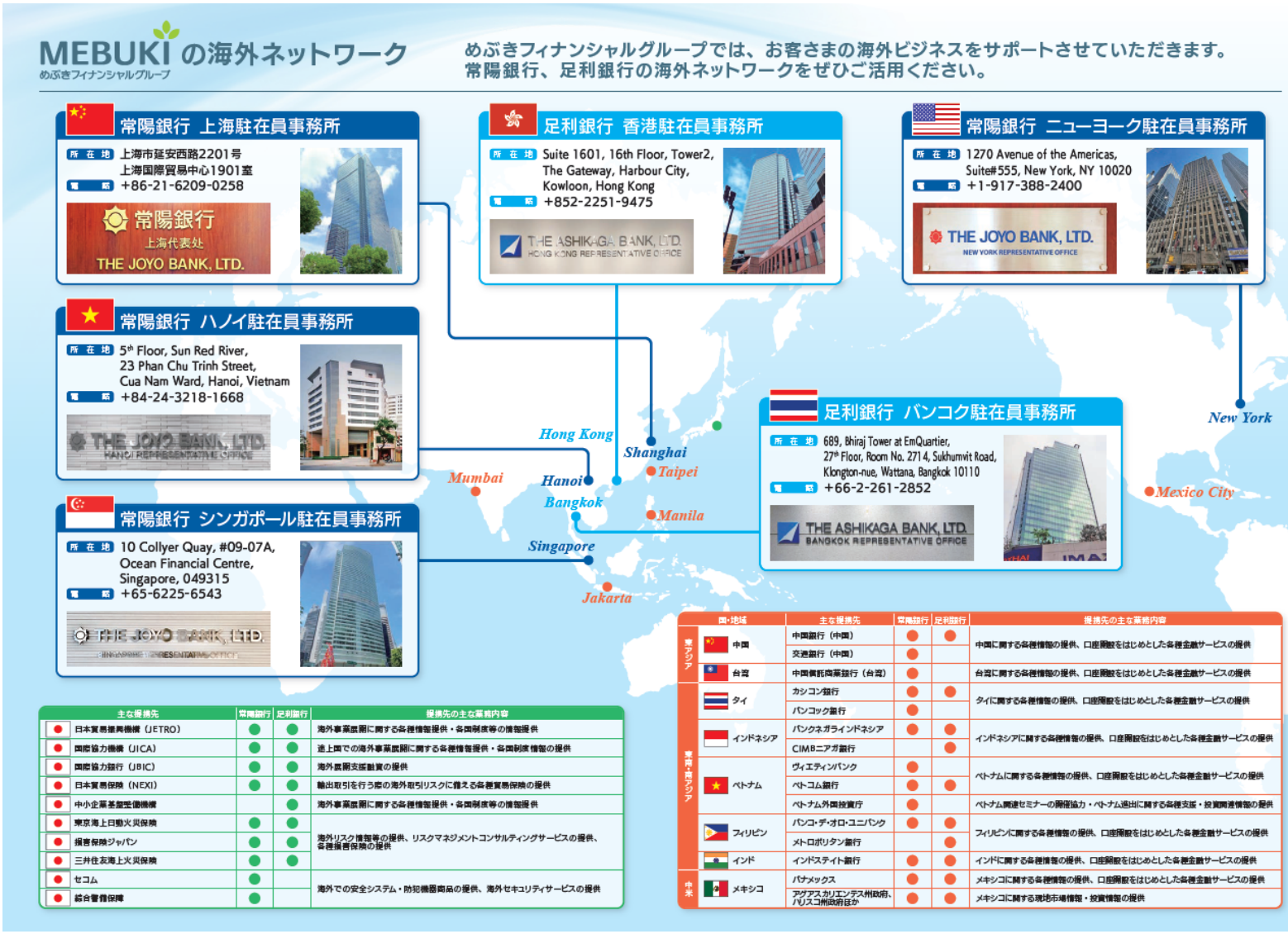


中国のサッカーくじ（筆者撮影）

ニュース一覧

- 合翼航空の eVTOL 運航が本格化、安全飛行回数 5000 回突破(8/28)
- AI 利用量が 2 年で約 5000 倍、計算力網建設で 4 兆元投資見込み(8/31)
- BYD は中間 21%減益、海外売上高が初の国内超え(9/1)
- 2030 年に小売売上高 60 兆元へ、政府が促進策発表(9/2)
- 中国製造業で海外売上 5 割超相次ぐ、OEM からブランド・技術競争へ(9/3)
- 習主席が異例の集中外遊、米中首脳会談前に「グローバル・サウス」重視(9/4)
- 無錫で AI グラス量産基地が稼働、年産能力 100 万セット(9/7)
- 習主席訪米に企業代表団同行へ、通商関係の改善を演出(9/8)
- 車メーカーの部品代金支払いで新指針、中小向け最長 60 日(9/9)
- 中国製造業で進む AI「無人化工場」、全工程の自動化で生産性向上(9/10)
- 中国製ロボ、工場ラインから世界の特殊現場へ(9/11)
- 工業製品「内巻」是正へ、原価割れ販売の監視強化(9/14)

［出所：亜州ビジネス China］



Disclaimer

本レポートの内容につきましては、当行の信頼し得る先からの情報に基づいて作成しておりますが、その正確性、信頼性を保証するものではありません。具体的に法律上、会計上、税務上の助言を必要とされる場合は、それぞれの専門家にご相談くださいますようお願いいたします。

発行元：常陽銀行市場国際部

常陽銀行上海駐在員事務所

上海市長寧区延安西路 2201 号 上海国際貿易中心 1901 室

TEL ：＋86-21-6209-0258

E-mail：joyosh@uninet.org

足利銀行香港駐在員事務所

Suite 1601, 16/F, Tower 2 The Gateway Harbour City, Tsim Sha Tsui, Kowloon, HK

TEL ：＋852-2251-9475

E-mail：hongkongrep@ashikagabk.com.hk